

1209 前開き全身タイツの作り方。



いるもの

- 表生地 縦横に伸びる生地
- ニット用の糸 レジロン
- ニット針 普通の針で縫うと後で裂けやすくなります。
- コンシールファスナー60cm
- ラックテープ(熱接着の両面テープ)4~5mm幅
なくても服は作れるが、初心者が洋服を作る際に使うと早くきれいに作れる。

オススメの生地

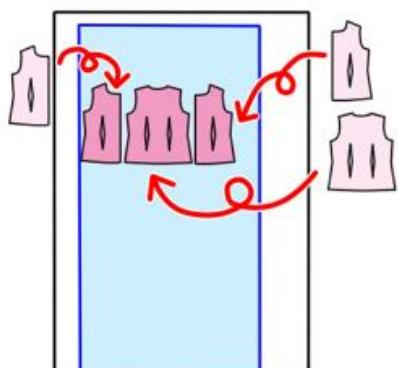
・2WAY(左右に伸びる)生地

※白や薄い色合いの生地は下が透けやすいので、きをつけてください。

タイツを作る時は伸びる糸を使用して縫ってください。

普通の糸で縫うと、生地を伸ばして着るときに糸が切れてしましますので必ずレジロンんのニット糸をご使用ください。

必要な布の量の計算方法



生地は70、90、100、105、110、115、130、140、150、180と幅が色々あります。

また、丈を短くしたり、伸ばしたり、改造パーツなど組み合わせをかえると布の量が大きく変わります。

そこで布の幅に合わせて正確に布の量を出すには型紙のすみについている1/10サイズの型紙を、使いたい布の幅に書いた紙の上に並べれば簡単に布の量が分かります。

特にコスプレだとパーツごとに色を変えたりするので、この方法で確認すると確実です。

布を切るときの効率的な配置も分かるのでお勧めです。

QRコードのリンク先に布の量の自動計算フォームもあります。

1	4	7	10	13	16
2	5	8	11	14	17
3	6	9	12	15	18

貼りあわせ図例



型紙の貼り合わせ

1枚目に貼り合わせの組み合わせが書いてあります。

先に貼り合わせの組み合わせに山を分けてから、左と下を切り落として貼る。

糊を使うとシワになったり、貼り直しがしづらいので、劣化の遅いメンディングテープがおすすめ。



**本番前に必ず
1/10 サイズを作って！**
テープで組み立ててから
裁断に入ってください !!
勘違いや失敗が格段に
減ります !!



うさこの型紙屋さんが作った型紙には1/10サイズの型紙がオマケで型紙の余白についています。

これを布を切る前に組み立てると、説明書の理解度が一気に上がります。

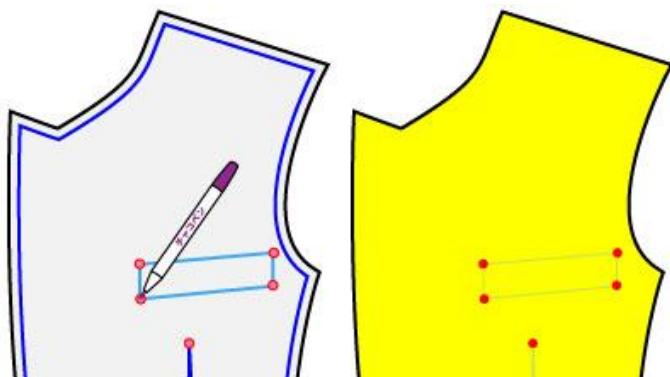
洋裁が、難しく感じるのではなく先が想像できないからです。
パズルと思ってテープで組み立てみてください。
たった3~20ピース程度のパズルなんて簡単だと思いませんか？



洋裁工房の型紙は表から見たときに写真どおりに作れるようにしています。

布の表に型紙を重ねて写す。

待ち針で固定すると型紙が浮くので、マスキングテープを丸めて両面テープ状にして貼るか、携帯電話程度の物をおもしにして、型紙を固定する。
チャコで印をつけたら型紙は外して良い。

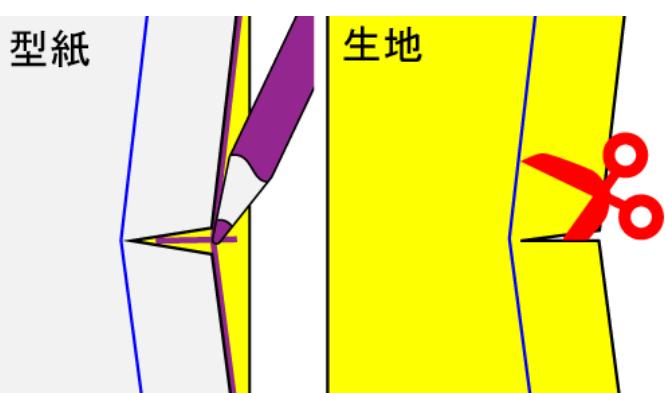


型紙の中にある線の印は、型紙に穴をあけて写す。

淡い色の生地は消えるチャコペンで写す。

濃い色の生地は濃い色用の消えるチャコペンか、三角や鉛筆などの固形のチャコで写す。

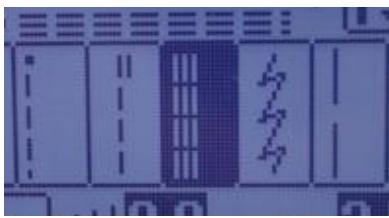
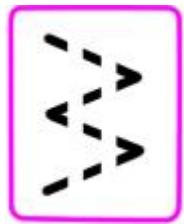
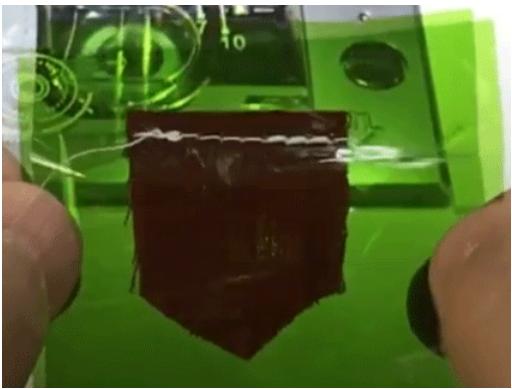
固形のチャコはアイロンをかける前にガムテープ等でペタペタ叩くと取れます。

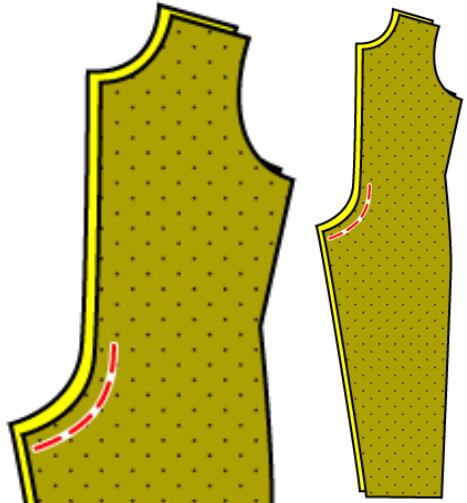


型紙に入っているVになっている所は位置合わせの印です。

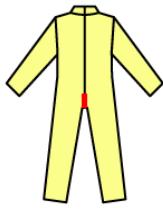
立体になっていて正確に位置を合わせにくい所や、伸びやすい・丈の長い場所など、縫い切れを起こさない為の印なので必ず入れる。

布にチャコペンでうつしたら、鋏で縫い代-1mm位(1cmの縫い代なら9mm)の所まで切り込みを入れる。

 <p>縫い合わせの番号を付ける</p> 	<p>型紙に書かれた番号をマスキングテープに写して貼る。</p> <p>縫い合わせる場所が番号でわかつたり、前後や左右のつけ間違いを減らせます。</p> <p>またパーツ名や裏表を書いておくと、より間違いを減らせます。</p>
<p>ニットの縫い方</p> 	<p>必ず伸びる生地(レオタード生地・スパンデックス・2WAYなどと書かれた物)と伸びる糸(レジロン)とニット針を使ってください。</p> <p>1.5~1.8倍程度伸びるもの 人間の体は動くと筋肉が膨らんだり伸びるので15倍以下の伸縮だと、着られない物になります。</p>
	<p>普通の縫い方だと糸が切れるので ニット用のレジロン糸を購入してください。図のような三本線の柄を選択して縫う。</p> <p>これだと最大1.5倍程度の伸縮でも耐えます。</p>
 	<p>ニットのほつれ止め。</p> <p>大概のミシンにはこのような点線で描かれたジグザグ縫いの模様があると思うので、これを選択する。(3点ジグザグといいます)</p> <p>※2WAYはほつれにくいので、どうしてもうまく縫いにくい場合はしなくてもOKです</p>
 <p>紙の場合は破る時に縫い目が乱れやすいのでゆっくりちぎってください。</p>	<p>ニットは縫っていると、柔らかいので食い込んだり、伸びたりずれたりして長さが合わなくなる事がある。そこで紙を帯状に切って、布と押えの間にはさむと、伸びやズレが減る。</p> <p>透明セロファンは見やすくぬいやすいですが、急ぎでセロファンがない！という時はコピー用紙を切って挟んで縫うだけでも伸びが抑えられる。</p> <p>※紙の場合布と一緒に縫わないように注意。</p>



まっすぐ縫うコツ

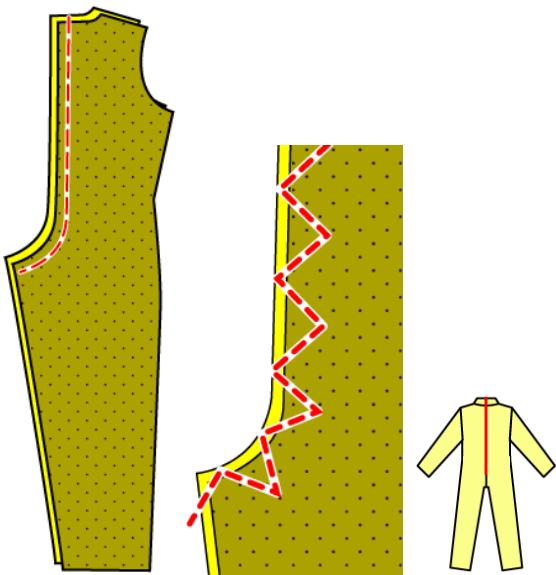



前中心を表同士が内側になるよう重ねる。

前身頃の中心にファスナーをつけるので、ファスナーをつける位置から下を1cm幅で縫う。

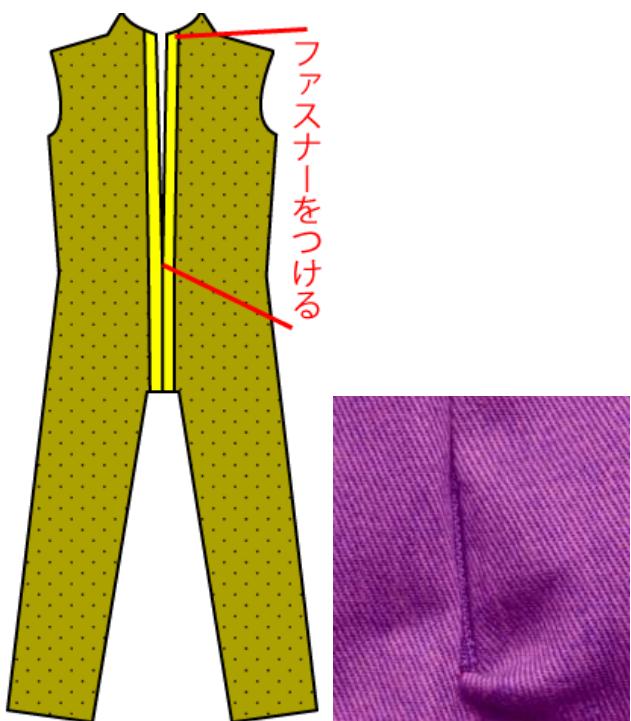
針は必ずニット針に替える。

普通の針だとあとで裂けやすくなる。



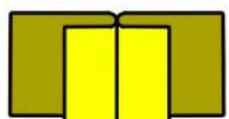
後身頃を表同士が内側になるよう重ねる。

後中心を1cm幅で縫う。

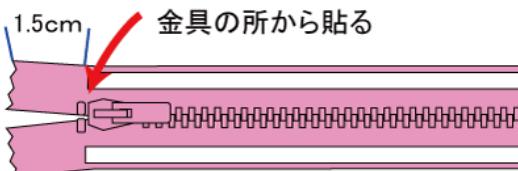
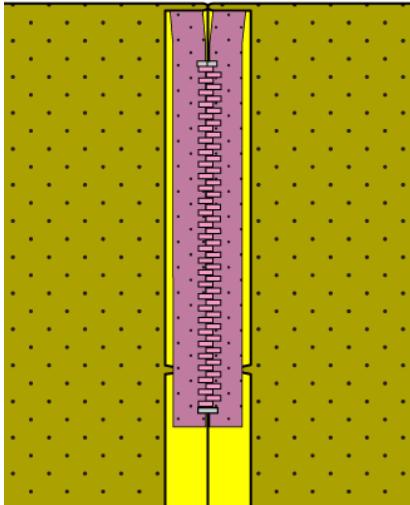


この長さが
ぬい目の長さ

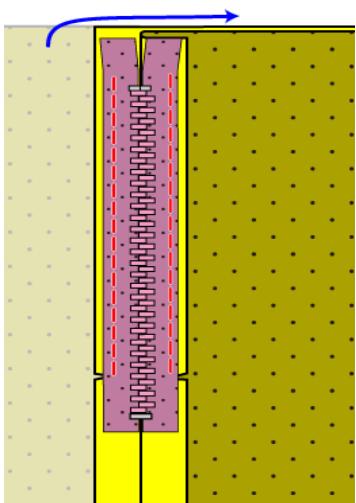
首からファスナーの端(開きどまりといいます)までミシンの縫い目の長さを3mmくらいにして、返し縫いをせずに縫う。この部分はあとで糸を抜くので、下糸の色を変えておくとほどきやすくなる。



縫い代にアイロンをかけ左右に折る。



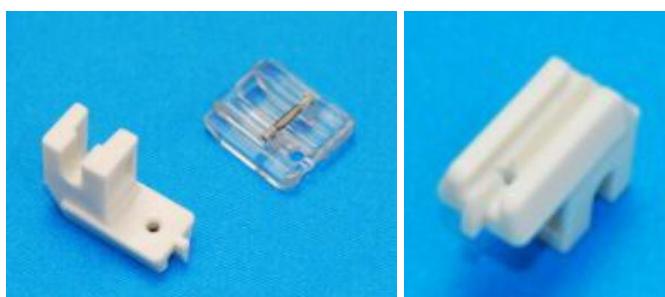
熱接着の両面テープがあれば、ファスナーの表面に貼る。
熱接着の両面テープを貼るとファスナーがずれず縫いやすい。
熱接着の両面テープのはくり紙をはがす。
縫い代の上に、裏を上にしたファスナーを置き中温のアイロンで15秒押える。
ラックテープが無ければ待ち針で固定する。



スカート本体をよけて、ファスナーと縫い代だけを縫う。
ファスナーの端から2~3mmの所を縫う。
【あきどまり】の印より下まで縫わないように注意！
開き止まりより下を縫うと、後でファスナーのスライダーをあげるのが難しくなる。



糸のほどき方
糸きりハサミやリップヤーで2番目に縫ったファスナーをつける部分の糸をほどく。



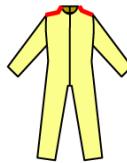
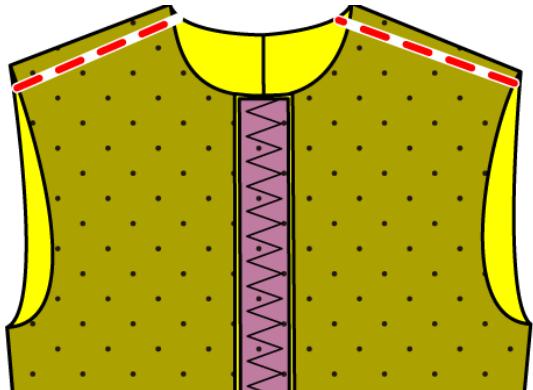
ミシンの押さえをコンシールファスナー押さえにかかる。
このコンシールファスナー押さえは一般的な家庭用ミシンであれば数百円で購入ができます。
最近は付属のものもある。

お洋服を作る人は1つ持つておくと便利です。
コンシールファスナー押さえは写真のように裏側に溝が入っています。

左側は軸から替えるタイプ、右は後のボタン押して押さえを交換するタイプ用
※機種によって形は異なる。



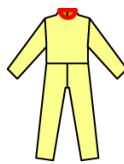
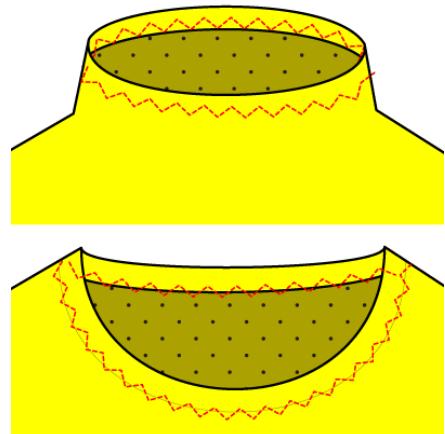
この溝にファスナーのムシ(レール部分)を入れて縫うと、ファスナーのムシのそばギリギリを縫うことができます



前と後ろを内側が表になるように重ねる。

肩を1cm幅で縫う。

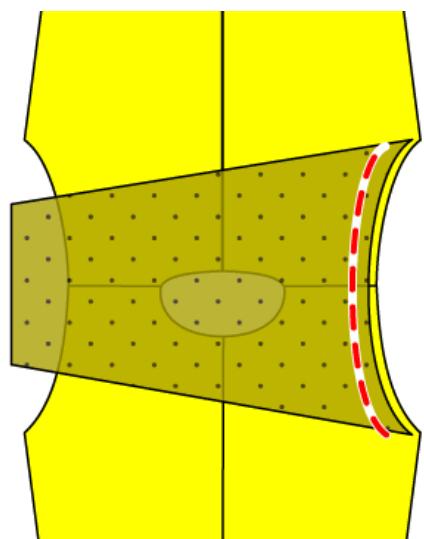
こここの肩も前後一緒にほつれ止め



縫い代を1cm裏へ折る。

3点ジグザグで縫い代を縫う。

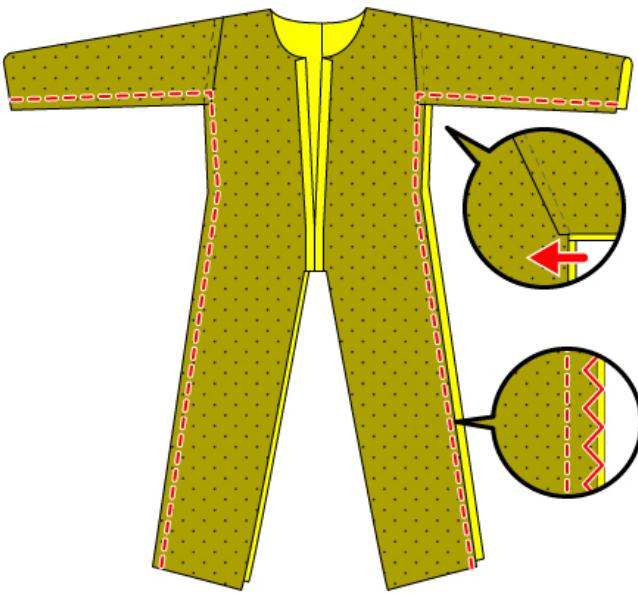
ニットは切った端が丸まりやすいが、
このように幅のある模様縫いで、布
端を股くようにして縫うと、端が反り返りにくい。



身頃のそでぐり(袖のカーブ)とそで
を表同士が内側になるように重ね
る。

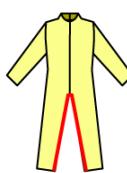
1cm幅で縫う。

ここも一緒にほつれ止めする。



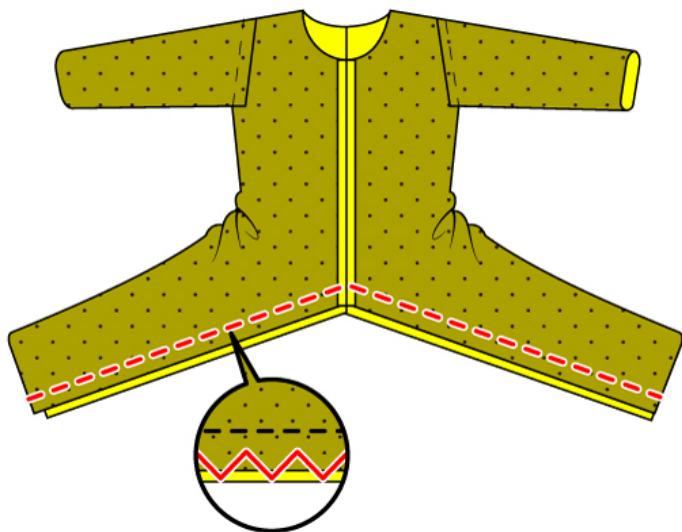
表同士が内側になるように前後を重ねる。
そこで口からすそまで1cm幅で縫う。
その縫い代は見頃(胴体)側へ折る。

前後をまとめてほつれどめ

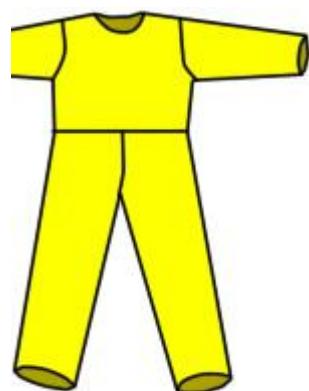


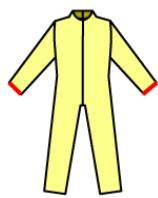
ズボン(下半身)の股の下を縫う。

ここも2枚一緒にほつれどめをする。
股の上の前の縫い代はウエストと同じ方向へ、後の縫い代は左右に広げる。



表にかえす。



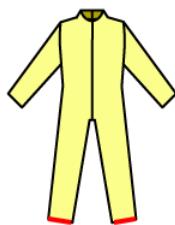
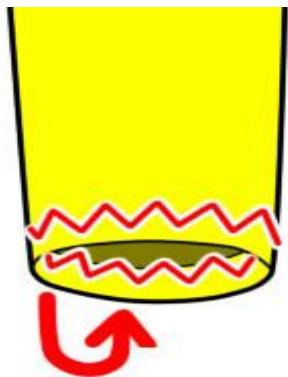


筒の縫い方



そで口の縫い代を裏側に2cm折る。
ラックテープがあればそで口の縫い代の裏側に中温のアイロンで貼る
剥離しをはがし、縫い代を固定する。

そで口を2cm幅で折って、3点ジグザグで縫う。



すそ2cm裏側に折る。

3点ジグザグですそを縫う。